

災害委員会2008～9年度活動報告

災害委員会 委員長 林 康裕（京都大学）

2009年度～

災害委員会の目的（運営規定 第2条）

地震・風・水害などに関し，調査，研究，
発表及び建議などを行い，建築に関する
学術・技術・芸術の進歩発達に寄与する

災害委員会の事業（運営規程 第3条）

- （1） 災害及び抑制に関する調査，研究
- （2） 国内外の災害時における調査団の派遣，情報収集などの推進と調整
- （3） 災害に関する報告書の編集
- （4） 前項（1）～（3）に関する成果の普及
- （5） 委託研究
- （6） 内外の関連委員会，学協会，官公庁など関連機関との連絡調整
- （7） 理事会からの付託事項
- （8） その他目的達成に必要なこと

本委員会の委員構成

委員長，幹事（4名），WG主査（4名）
支部選出委員

北海道，東北，関東，東海，北陸，近畿，中国，四国，九州

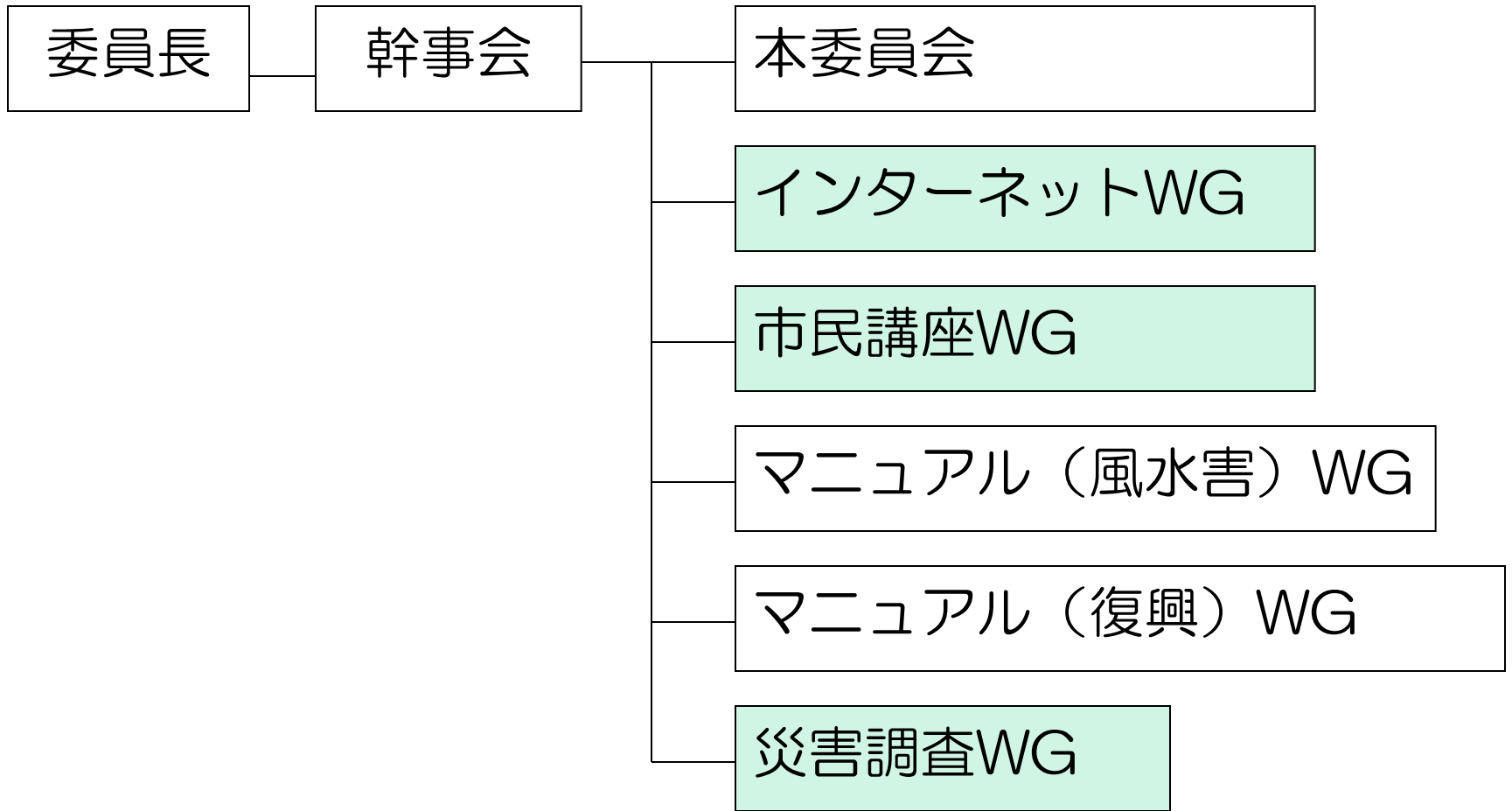
構造委員会選出委員

応用力学，荷重，基礎構造，木質構造，鋼構造，壁構造，RC構造，PC構造，シェル・空間構造，仮設構造，振動，鋼コンクリート合成構造

学術推進委員会選出委員

材料施工，建築歴史・意匠，防火，建築社会システム，環境工学，建築法制，建築教育，都市計画，建築計画，農村計画，海洋建築，地球環境，文教施設，情報システム技術

組織構成



災害発生ごとに随時

定常予算

年間予算： 615,000円

(市民WG： 500,000円)

臨時予算

災害調査WGの報告書作成費

各WG 本委員会開催，大会，

メール審議

特別事業（年間特別予算100万円）

2005～2007年度の3年間

災害に関する知識の普及と地域の防災力向上を
目的

各支部から市民に対する地震防災対策の啓発・
普及を促進するような企画に対する支援活動
6支部8市町において当該地のハザードや実情を
踏まえた企画が実施され、自治体等と連携する
ことにより少ない経費でも開催が可能となっ
ております

→ 2008年度以降（年間特別予算50万円）

市民企画講座WG・支部企画活動実績

2005年度		
北海道	津波防災まちづくりシンポジウム in おくしり, 2005年10月14日-15日, 北海道奥尻町	70名, 津波防災まちづくりシンポジウム in おくしり (CD-ROM)
近畿	防災市民講座「親子で考えよう, 防災対策」, 2006年3月4日, 和歌山県和歌山市	46名, 資料なし
2006年度		
東北	防災市民講座「若者と一緒に活動する自主防災 組織の構築に向けて一仙台市八木山地区」, 2007年3月3日, 宮城県仙台市	90名, 資料なし
北陸	災害における自助・共助・公助～的確な情報伝 達・取得のために何をすべきか～, 2006年7月8 日, 福井県福井市	100名, 災害における自助・共助・公助～的 確な情報伝達・取得のために何をすべきか～ 活動報告書
東海	巨大地震からわが子を守るタウンウォッチン グ・静岡編, 2006年11月26日, 静岡県静岡市	50名, 巨大地震からわが子を守るタウン ウォッチング・静岡編 開催報告書
東海	みんなでたのしむ防災まちづくりフェスティバ ル, 11月26日, 愛知県半田市	500名, 「みんなでたのしむ防災まちづくり フェスティバル」報告書
2007年度		
北海道	津波防災まちづくり体験学習inところ, 2007年 10月12日-13日, 北海道北見市	125名, 「津波防災まちづくり体験学習inと ころ」報告書
四国	来たるべき南海地震への備え：地域間地震防災 フォーラム, 2007年11月4日, 高知県宿毛市	100名, 「来たるべき南海地震への備え：地 域間地震防災フォーラム」報告書

災害調査WG/インターネットWG

<2008>

- 2008年7月24日岩手県沿岸北部の地震
- 2008年6月14日岩手・宮城内陸地震
- 2008年5月12日中国四川省の地震
- 2009年1月4日インドネシア・ニューギニア付近の地震

<2009>

- 2009年4月6日 イタリア中部の地震
- 2009年9月30日スラバワ沖・スマタラ諸島沖の地震
- 2009年8月11日駿河湾を震源とする地震
- 2010年1月12日ハイチの地震
- 2010年2月27日チリ地震
- 2010年3月8日トルコ東部の地震

インターネットWGの課題

学会員や社会への情報提供

- 災害情報
- 日本建築学会ならびに災害委員会主催の催し物

迅速にHPを更新するために、Wikiシステムを導入しているが、サーバーの管理等、負担が特定委員に集中する。災害発生時に各種情報を如何に迅速・明確に発信できるかが課題である。

災害調査WGの課題

- 国内外の災害時における調査団の派遣
- 報収集などの推進と調整

災害の多発（特に、海外）と若手研究者の減少で、調査する会員、調査を支援する会員の経済面も含めた負担が増加している。動く元気が減少している。

災害の物理的被害だけでなく、災害復興過程についての調査・協力にも活動を広げている。

～大震災に備えるセミナー～

建築学会・タスクフォース（佐藤会長主導）

- 1月25日 東京会場
 - 首都圏直下地震・復興に備える
- 1月26日 名古屋会場
 - 大地震に備える建築とまちづくり
- 2月 1日 大阪会場
 - 21世紀前半の大阪を襲う地震被害

市民講座WG（地域開催）

■2008

- （秋田・能代：130名）
 - － 地域特性に考慮した防災対策～秋田・能代に必要なもの～
- （北海道・中標津：39名）
 - － 地震防災体験学習inなかしべつ～みんなで始める地震防災対策
- （福岡：120名）
 - － 災害フォーラム「地震と台風・竜巻，どっちが怖いーどこが違う，建物の備え」

■2009

- （熊本市：70名）
 - ✓ 地震と台風・竜巻による都市・建物の被害調査
＜どこが違う建物調査の要点＞
- （仙台市:2回、42名+160名）
 - ✓ 生涯教育（学びのコミュニティ）の活動と連携した市民防災講座

市民講座WGによる企画

- ・ 時期：2月上旬
- ・ 企画：「震災対策技術展」関連講演会
- ・ 場所：横浜開催

<2009>

「未来につなぐ子どもたちの環境と防災」

<2010>

「地震・災害との共存をめざして」